

注意点1



理論

2つのポジションを使用する
応用トライアド・ポジション

このメイン・フレーズのような様式美系2本弦エコノミー・フレーズでは、基本的にオーソドックスなトライアド・ポジションを使用することが多い。ただし、このフレーズの1〜3小節目は、1つのコードに対して2つのポジションを使用しているので、事前にポジションを頭に入れておく必要があるだろう。各小節とも最低音となる2弦が、1&2拍目ではルート音、3&4拍目では3rd音になる(図1)。ポジション移動の際には、2弦を押弦する中指が軸になるので、まずは中指の移動に注意すると良いだろう。中指の押弦が遅れてしまうと、サウンドとフレーズが一気に崩れてしまうので気をつけてほしい。

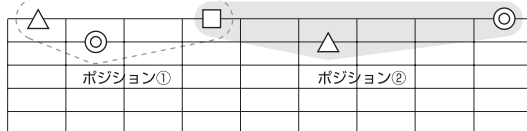
図1 2つのトライアド・ポジション

◎ルート音 △3rd音 □5th音

・マイナー系(1小節目)



・メジャー系(2&3小節目)



2弦はルート音→3rd音という流れになる。

注意点2



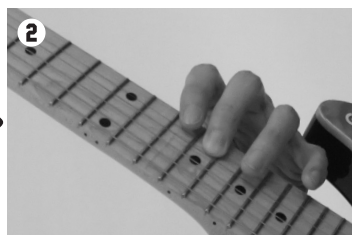
左手

人差指&小指をセットにして
スムーズに移動しよう

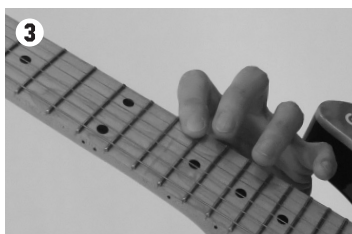
このメイン・フレーズは1つのコードに対して2つのトライアド・ポジションを使用しているので、ポジション移動を的確に行う必要がある。注意点1で解説したとおり、まずは最低音を押弦する中指の移動に注意しなくてはならないが、続く人差指と小指のフィンガリングも意識しておいた方がよい。基本的には中指が2弦を押さえたと同時に、人差指と小指も1弦上のコード・トーンを押弦する準備をしよう(写真①〜④)。このようなエコノミー・フレーズでは、“ダウン→ダウン→アップ”という右手の動きはもちろんのこと、左手の細かい移動も気をつけなくてはならない。右手だけではなく、**左手もエコノミーな動き【註】**になるように頑張ろう。



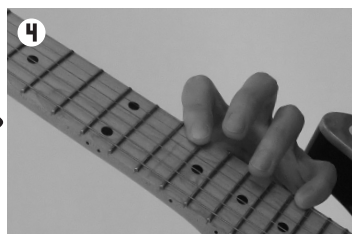
1小節目2&3拍目。小指による1弦14fの押弦後は……



中指を2弦15fに移動。人差指と小指の準備も忘れずに!



続いて、1弦14fを人差指で押さえて……



ルート音である19fを小指で押弦しよう。

～コラム22～

教官の戯れ言

そもそもここでイングヴェイのすごさについて語る必要があるのか疑問を持ってしまうぐらい、彼の超絶ギター界での地位は不動のものである。彼は、世間の音楽トレンドがどんなに変化してもデビュー以来、自分のスタイルを一切変えることはなかった。その揺るぎない彼の活動姿勢こそが、まさに“超絶”だと言えるのではないかな。プレイ面ではエコノミーを駆使した速弾きに注目が集まりやすいが、実は泣きのギタリストとしても高いスキルを持つ。“イングヴェイ=速弾き”とだけ認識しているようでは、彼の本質を理解したことにはならないぞ!

著者・小林信一、かく語りき
イングヴェイ・マルムスティーン編イングヴェイ・マルムスティーン
『トリロジー』

1986年に発表されたソロ作。若き日のイングヴェイのテクニカル&エモーショナルなギター・プレイが炸裂した様式美の名盤だ!

イングヴェイヨハン・マルムスティーン
『エレクトリック・ギターとオーケストラ
のための協奏組曲 変奏短調「新世紀」』

フル・オーケストラをバックに、イングヴェイが超絶プレイをくり広げる“クラシック”アルバム。

【左手もエコノミーな動き】ギター・プレイは両手のタイミングがピッタリ合うことで初めて成立する。したがって片手だけが高速化しても意味がない。常に両手を同時に高速&効率化するように心掛けるべし!